

# 彩絵本・中国伝統节日故事

中国人作家による絵本「不是方的，不是圓的」を訳す

Translate picture book by Chinese writer

「Bu shi fang de, bu shi yuan de」

矢野 日出子

## 1 はじめに

「彩絵本・中国伝統节日故事『不是方的，不是圓的』<郑 春华 / 文 陈 舒 / 图>

(上海少年儿童出版社：2008/05第1版第一次印刷)という一冊の絵本に出会った。黄色を主体とした暖かい色調とネズミの一家を軸に物語が展開し、ペラペラとページをめくるとなんだか楽しそうな話である。また、愛くるしいネズミの表情から幼児が喜んで読めるような絵本である、とも感じた。

幼稚園現場で幼児期における絵本の大切さを痛感していた筆者にとって、隣国中国の幼児はどのような環境のもと、どのような絵本に親しんでいるのかも大変に興味のあるところである。そして教育事情も大変に気になる事柄である。この一冊の絵本を日本語訳することで何かが見えられるのではないかと思い挑戦してみることにする。

「絵本は幼児にとって成長の糧となるべきものである・・・」という自論を強く持っている筆者にとって、この絵本を手にした途端、優れた絵本で魅力的に感じられた。

しかもこの絵本は中国人によるものである。自国の未来の光である子どもたちの教育は外国人でなく中国の人たちが自ら施すべきである、と感じている筆者にとって、ともすれば外国絵本の中国語訳の多い現状であるが、中国人作家がどのように絵本を創り出していくのかは大変に興味のあることである。

以上のような観点から『不是方的，不是圓的』という絵本を通し、中国人は自国の幼児に何をどのように伝えようとするのか日本語訳をすることで探ってみようと考えた。

## 2 優れた絵本とは？

溢れるように次々と絵本が出版されあっという間に消えていく。筆者は「優れた絵本」の一

番の条件として、何より幼児が喜んで楽しんで読めるものであることをあげたいと思う。敢えて“幼児が”と強調したいと思う。何故なら現在、溢れるように絵本が出版され、中には充分に大人の鑑賞にたえられるものも数多くある。しかし「幼児にとって優れた絵本」とは、話の展開が分かりやすく、読んでいて気持ちがホッと和やかになり、登場人物に親しみを感じたり、勇気が湧いたり 等々、絵本はまさしく「幼児にとって成長の糧となるものであるべき・・・」そして人の情や社会の生活が学べるものである、と強く感じている。その意味からも幼児の反応というものは大変に重要なものである。幼児に絵本を与える時、いつも彼らの反応に敏感でありたいと思っている。我々大人は、「もういっぺん読んで・・・」「おもしろかった！」などの何気なくもらす幼児の反応にいつも敏感でありたいと願う。

#### ○ 学生の反応から

2, 3年生ゼミ学生にこの絵本の挿絵のみ見せて感想を聞いてみた。

- ・ネズミはどちらかというと嫌われているイメージであるがこの絵本のネズミは本当に愛らしく一生懸命生きているように描かれている。
- ・中国の文化がよく分かる。ネズミの着ている服が中国っぽい服でよかった。
- ・めでたい日に自分たち（ネズミたち）も真似して屋根裏の自分たちの部屋でお祝いをしている。このことは微笑ましい。
- ・挿絵の暖かな色調が楽しそう。特に家具や飾りの色がきれい。
- ・文字が多いと感じた。
- ・伝統や文化を伝えるにはよいと思った。
- ・絵のタッチが柔らかい。暖色が多く使われていて、読んでいて温かな気持ちになれる。
- ・粽（ちまき）が美味しそうだった。また、この粽という食べ物をとおして他国の文化を知ることができる。
- ・ネズミの家族も仲が良さそうで気持ちがほっこりした。
- ・挿絵をみただけで話の内容が分かるようだった。
- ・ネズミが主人公であることで粽や窓などが大きく描かれており子どものファンタジー心をくすぐる。
- ・粽が美味しそうに描かれており「食べたい！」と思った。
- ・幼児向け絵本なのに粽の作り方が描かれていてとても斬新な気がした。
- ・伝統行事の食べ物や飾りなどの挿絵がいっぱいあり言葉だけの説明よりも分かりやすいと思った。
- ・自国の伝統文化や食べ物に触れることは幼児にとってはとてもいいことだと考える。

以上のような感想から、この絵本は

- ① 挿絵からだけでも話の展開が分かる。
- ② ネズミの一家が中心の話でなかなか楽しそう。
- ③ 粽は日本人はあまり食べないがこの作者は中国の子どもに何かを伝えようとしている。

等々、大学生ならではの新鮮な感性でこの絵本の良さを捉えている

### 3 実際に日本語に訳す

以下にページにそって日本語訳を試みる。

<表紙>



彩绘本·中国传统节日故事

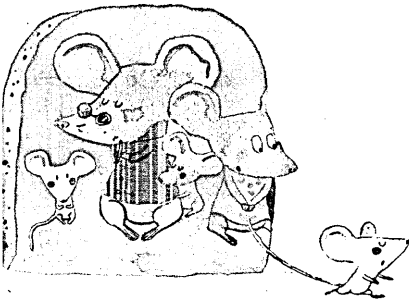
不是方的, 不是圆的

絵本·中国伝統行事物語

しかくでもない, まるくもないもの……なあんだ?

老鼠一家，就住在走道上的夹层里。走道紧挨着小娟家的厨房，厨房里总会有香喷喷的味道飘过来，每天都不同。

鼠爹会肯定地说：“这是煎鱼的香味！”鼠娘只会猜测：“这大概是烤肉的香味……”三只小老鼠常常馋得直流口水。

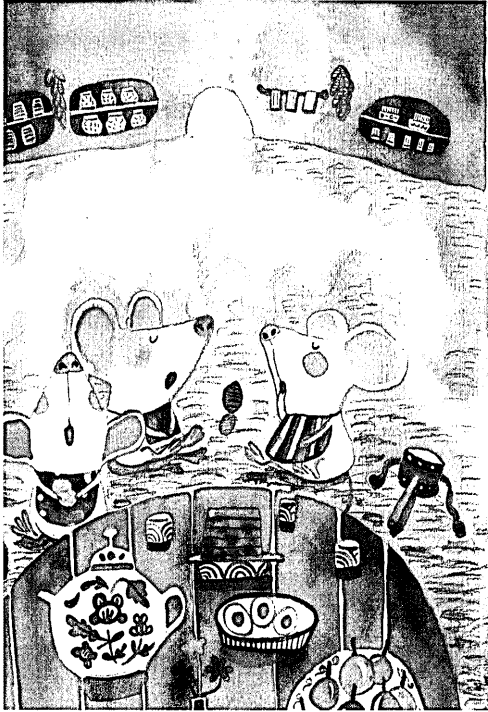


老鼠一家，就住在走道上的夹层里。走道紧挨着小娟家的厨房，厨房里总会有香喷喷的味道飘过来，每天都不同。

鼠爹会肯定的说：“这是煎鱼的香味！”鼠娘只会猜测：“这大概是烤肉的香味……”  
三只小老鼠常常馋得直流口水。

ネズミの一家が、道に面した建物の中に住んでいました。そのネズミのおうちは、けんさんの家の台所と引っ付いていて、毎日違った食べ物のいい匂いがしてきました。

父さんネズミはきっぱりと言いました。「この匂いは魚を揚げてる匂いだな。」母さんネズミは「これはお肉を焼いてる匂いだわ……。」3匹の子ネズミたちは、その匂いをかいではよだれを垂らしていました。



这天，从小娟家的厨房里飘出来的香味，连鼠爹也说不出是什么香味。那香味又浓，又特别。三只小老鼠把鼻孔张得像山洞一样。

鼠爹憋不住了，说：“我去看看！”

一会儿鼠爹回来了：“就是这东西！”他拖回来一个不是圆的、也不是方的东西。

三只小老鼠连同他们的妈妈一起扑上去闻：“对，就是它的香味。真香呀！”他们连声说。



这天，从小娟家的厨房里飘出来的香味，连鼠爹也说不出什么香味。那香味又浓，又特别。三只小老鼠把鼻孔张得山洞一样。

鼠爹憋不住了，说：“我去看看！”

一会儿鼠爹回来了：“就是这东西！”他拖回来一个不是圆的，也不是方的东西。

三只小老鼠连同他们的妈妈一起扑上去闻：“对，就是它的香味。真香呀！”他们连声说。

この日、けんさんの台所から漂ってきた匂いは、父さんネズミでさえなんの匂いかわからないほど、とくべつ美味しそうな匂いでした。

子ネズミたちはなはお山の祠のように膨らみました。

父さんネズミは息を凝らして言いました。「ちょっと行って見てくるよ。」

しばらくして父さんネズミは「これだよ。」と引っ張ってきた丸くもない四角でもないものをみんなにみせました。

3匹のネズミと母さんネズミも跳んできて「そうよそうよ、この匂い、いい匂い！」

声を揃えて言いました。



这是什么东西呢？它外面包着的好像是树叶，树叶上还来来回回绑着细细的绳子。

老鼠大宝把头枕上去说：“大概是香香的枕头。”可它枕着不舒服。

老鼠二宝爬着坐上去说：“大概是香香的沙发。”可它硬邦邦的。

老鼠小宝把它拖上一辆行李车说：“大概是香香的行李。”

“还是小宝聪明！”鼠爹说，“是行李就赶快打开，看看里面是什么。”

这是什么东西呢？他外面包着的好像是树叶，树叶上还来来回回绑着细细的绳子。

老鼠大宝把头枕上去说：“大概是香香的头枕。”可它枕着不舒服。

老鼠二宝爬着坐上去说：“大概香香的沙发。”可它硬邦邦的。老鼠小宝把它拖上一辆行李车说：“大概是香香的行李。”“还是小宝聪明！”鼠爹说，“是行李就赶快打开。看看里面是什么。”

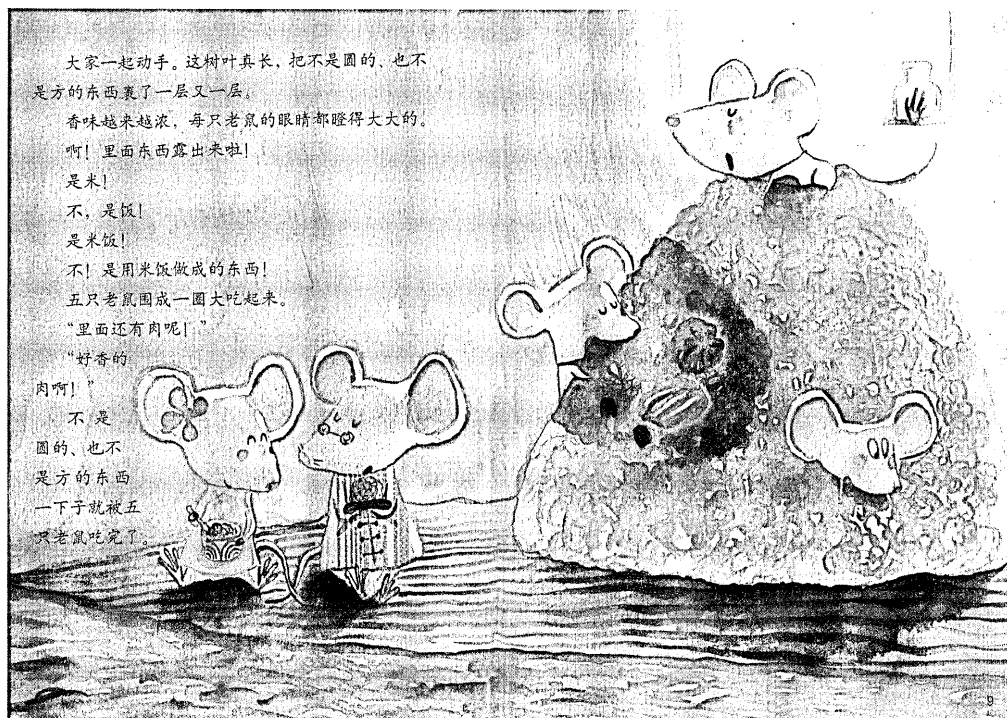
これは何でしょう？外側は葉っぱのようなもので包まれています。そして葉っぱは細い縄のようなものでグルグル巻かれています。

一番大きなネズミは、枕の上に登って言いました。「たぶんこれはいい匂いのする枕だよ。」でもその枕はあまり心地よくありません。

二番目のネズミは上によじ登って言いました。「たぶんこれはいい匂いのするソファーだよ。」

でもそれはソファーにしてはカチカチにかたいです。

チビネズミは一台の荷車を引っ張ってきていました。「これは多分いい匂いのする荷物だよ。」「やっぱりチビちゃんは賢いね！」父さんネズミは「荷物だよ。早く中に何が入ってるか見てみようよ。」といました。



大家一起动手。这树叶真长。把不是圆的，也不是方的东西裹了一层又一层。  
香味越来越浓，每只老鼠的眼睛都瞪得大大的。啊！里面东西露出来了啦！  
是米！不，是饭！是米饭！不！是用米饭做成的东西！  
五只老鼠围成一圈大吃起来。“里面还有肉呢”“好香的肉啊！”  
不是圆的，也不是方的东西一下子就被五只老鼠吃完了。

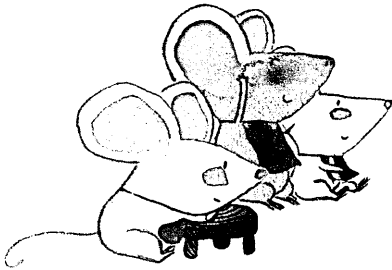
みんなで一緒に仕事を始めました。この葉っぱはほんとに長いです。丸くもなく四角でもなく一枚一枚ずつ包まれています。  
ますます美味しそうな匂いがしてきました。どのネズミの目も大きくなってきました。  
あっ！ 中身が出てきました。お米です！ いえ、ご飯です！ いえ、ご飯で作った何かです。  
5匹のねずみは輪になって食べ始めました。  
「中にはお肉もはいつてるよ」  
「いい匂いのお肉！」  
丸くもなく四角でもないものを5匹のネズミはあっという間に平らげてしまいました。

第二天一大早，三只小老鼠就嚷嚷：“还要吃昨天那个不是圆的、也不是方的东西。”

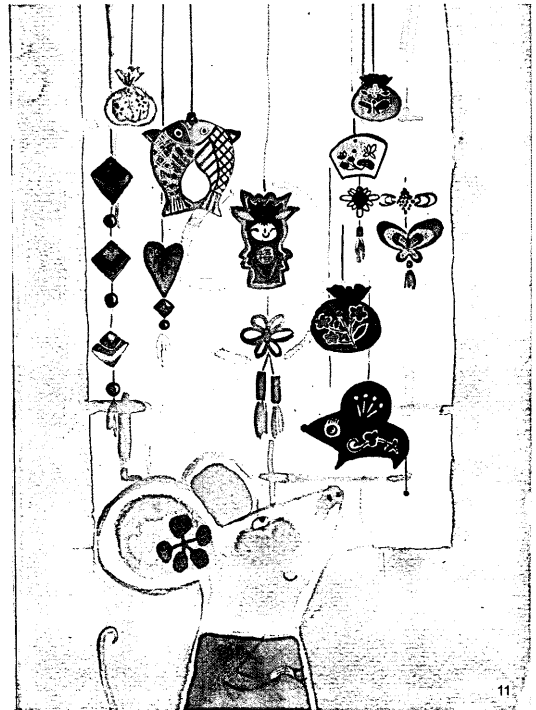
这回，鼠爹和鼠娘一起去找。

咦？今天小娟家里怎么这么漂亮！床上、橱门上、窗户上都挂着一串一串五颜六色的东西。

鼠娘看得笑咪咪的，她真想带一串回去给她的三个鼠宝宝看看。



10



11

第二天一大早，三只小老鼠就嚷嚷：“还要吃昨天那个不是圆的，也不是方的东西”

这回，鼠爹和鼠娘一起去找。

咦？今天小娟家里怎么这么漂亮！床上，橱门上，窗户上都挂着一串一串五颜六色的东西。

鼠娘看得笑咪咪的，她真想带一串回去给她的三个鼠宝宝看看。

つぎの日の朝早く，3匹の子ネズミたちはペチャクチャおしゃべりをしています。

「昨日食べた丸くもない，四角でもないものをまた食べたいね。」

今度は，父さんネズミと母さんネズミと一緒に探しに出かけました。

あれ？今日はけんさんのお家は どうしてこんなにきれいなのでしょうか？

ベッドの上，台所の入口，どの窓にも綺麗なものがぶら下がっています。

母さんネズミはにこにこして見ました。

この綺麗なもの，ひとつだけでも3匹の子どもたちに持って帰って見せたいな，と。





瞧，小娟又缝好了一串，递给一个小弟弟。小弟弟的额头上写着一个大大的、黄颜色的“王”字，胸前还挂着一个用网兜套着的大鸭蛋。

“给你香袋，虫子不咬你。”小娟笑眯眯地说。弟弟接过香袋，把它挂在裤腰带上。

“虫子！怕……怕这香袋？”鼠娘问鼠爹。

鼠爹什么也不说，他只是仔仔细细地看，仔仔细细地听。最后鼠爹已经忘记小老鼠要他们找的东西了，而是捡了一些做香袋的碎布，就和鼠娘一起急急忙忙回来了。



瞧，小娟又缝好了一串，递给一个小弟弟。小弟弟的额头上写着一个大大的，黄颜色的“王”字，胸前还挂着一个用网兜套着的大鸭蛋。

“给你香袋，虫子不咬你。”小娟笑眯眯的说。弟弟接过香袋，把它挂在带上。

“虫子！怕……怕这香袋？”鼠娘问鼠爹。

鼠爹什么也不说，他只是仔仔细细地的看，仔仔细细地的听。最后鼠爹已经忘记小老鼠要他们找的东西了，而是捡了一些做香袋碎布，就和鼠娘一起急急忙忙回来了。

ほら、けんちゃんはまたひとつ作って弟にあげました。

弟のおでこには大きな字の“王”が書かれていました。

胸には大きな家鴨の卵の入った袋も下げています。

「ほら、匂い袋よ虫にかまれないわよ。」けんちゃんは笑って言いました。

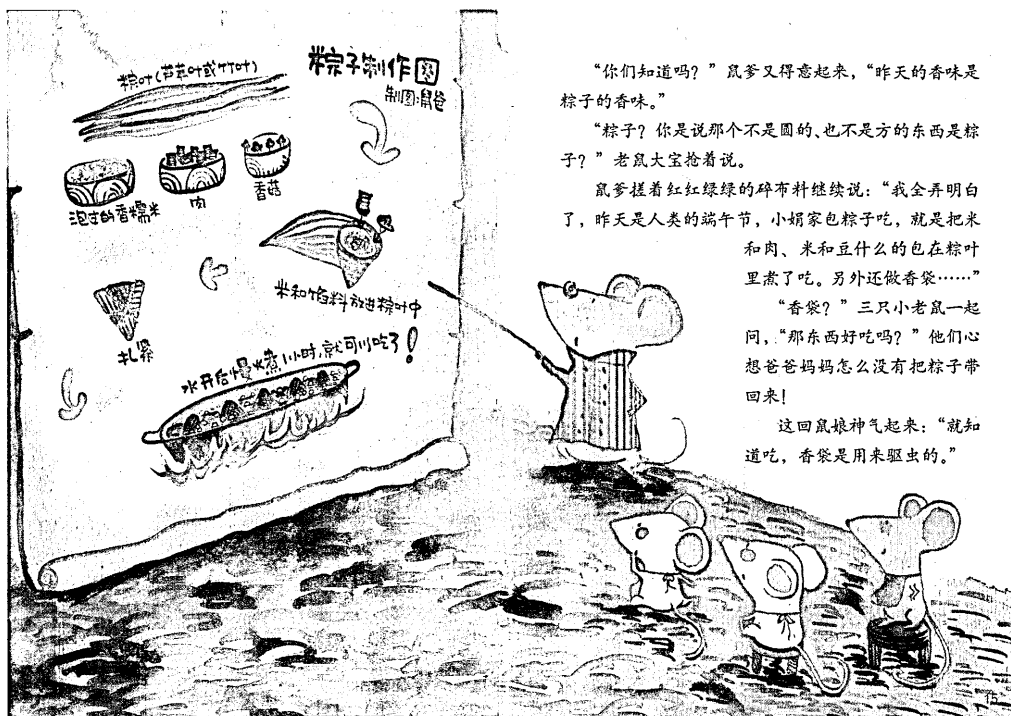
弟はもらうとベルトにぶら下げました。

「虫！虫って匂い袋が怖い？」母さんネズミは父さんネズミにききました。

父さんネズミは、ただよく見て、よくきいていました。

とうとう父さんネズミは子どもたちに頼まれたものを探すことを忘れてしまいました。

でも匂い袋の端切れをひらって母さんネズミと一緒に大急ぎで帰りました。



“你们知道吗？”鼠爹又得意起来，“昨天的香味是粽子的香味。”

“粽子？你是说那个不是圆的、也不是方的东西是粽子？”老鼠大宝抢着说。

鼠爹搓着红红绿绿的碎布料继续说：“我全弄明白了，昨天是人类的端午节，小娟家包粽子吃，就是把米和肉、米和豆什么的包在粽叶里煮了吃。另外还做香袋……”

“香袋？”三只小老鼠一起问，“那东西好吃吗？”他们心想爸爸妈妈怎么没有把粽子带回来！

这回鼠娘神气起来：“就知道吃，香袋是用来驱虫的。”

“你们知道吗？”鼠爹又得意起来，“昨天的香味是粽子的香味。”

“粽子？你是说那个不是圆的，也不是方的东西是粽子？”老鼠大宝抢着说。

鼠爹搓着红红绿绿的碎布继续说，“我全弄明白了，昨天是人类的端午节，小娟家包粽子吃，就是把米和肉，米和豆什么的包在粽叶里煮了吃。另外还做香袋……”

“香袋？”三只小老鼠一起问，“那东西好吃吗？”他们心想爸爸妈妈怎么也没有把粽子带回来！

这回鼠娘神气起来，“就知道吃，香袋是用来驱虫的”

「みんな知ってるかい？」お父さんネズミは得意気に言いました。

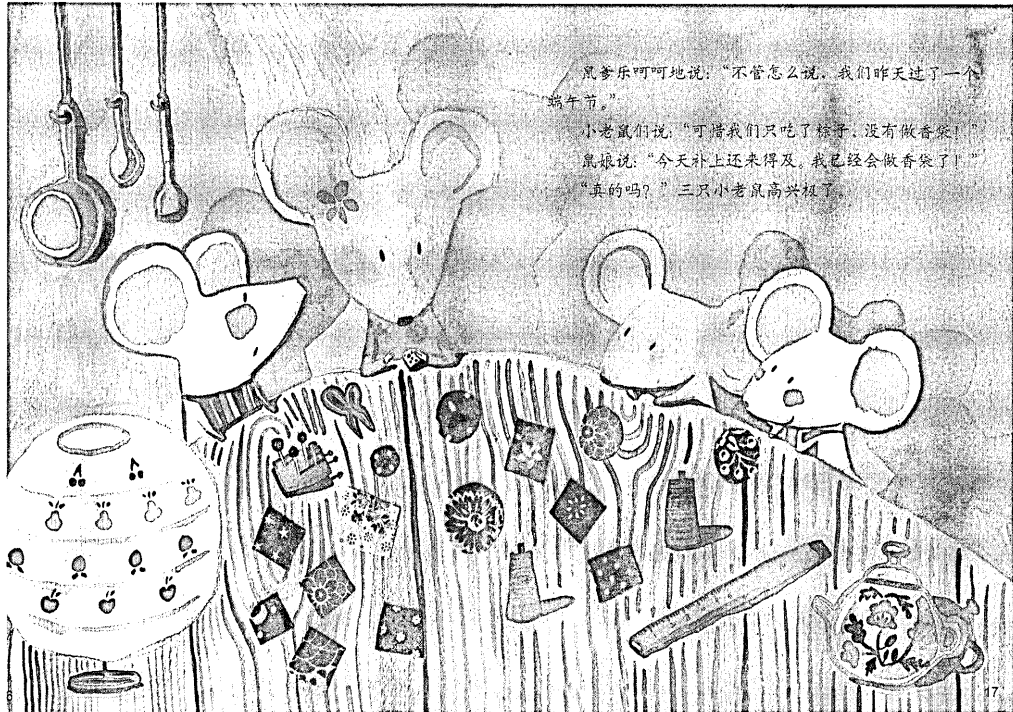
「昨日の匂いはだね、ちまきの匂いだよ。」

「ちまき？お父さんネズミの言ってるのはあの丸くもなくて四角でもないのが『ちまき』だって言うの？」一番大きな子ネズミが言いました。

父さんネズミは赤緑の端切れをこすりながら続けました。「父さんは全部分かったよ。昨日は人間の『端午の節句』なんだよ。けんさんの家でもちまきを作って食べて、つまりお米とお肉と、お米とお豆をぐつぐつ煮て葉っぱで包むんだ。それから匂い袋もつくるんだよ。」

「匂い袋？それっておいしいの？」3匹の子ネズミたちは父さんネズミと母さんネズミがどうしてちまきをもって帰らなかったかを思いながら聞きました。

母さんネズミは元気いっぱい言いました：「食べることばかりじゃなくてね、匂い袋はね、虫を退治するのよ。」



鼠爹乐呵呵地说：“不管怎么说，我们昨天过了一个端午节。”

小老鼠们说：“可惜我们只吃了粽子，没有做香袋！”

鼠娘说：“今天补上还来得及。我已经会做香袋了！”

“真的吗？”三只小老鼠高兴极了。

鼠爹乐呵呵地说：“不管怎么说，我们昨天过了一个端午节。”

小老鼠们说，“可惜我们只吃了粽子，没有做香袋！”

鼠娘说，“今天补上还来得及。我已经会做香袋了！”“真的吗？”三只小老鼠高兴极了。

父さんネズミは楽しそうに笑って言いました。「どちらにしろ、私たちは昨日『端午の節句』を過ごしたんだよ。」

「でも・・・，父さん，僕たちはちまきを食っただけだよ，匂い袋は作らなかったよ。」

「今日，まだ間に合うよ。母さんがもう作れるようにしておいたわ。」

「ホント？」3匹の子ネズミたちは大喜びです。

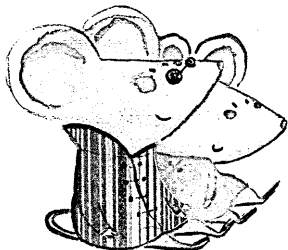
< P 19 >



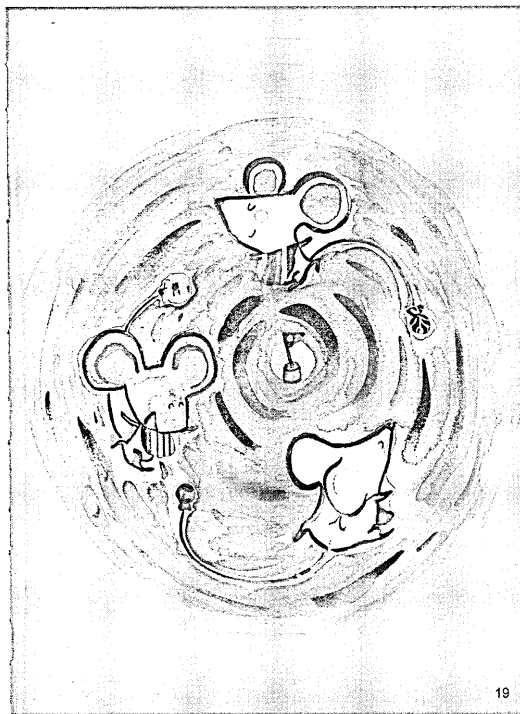
于是，鼠娘带着三个老鼠宝宝一起做香袋。

鼠爹呢，他把做好的香袋像小娟家里那样也一串一串地挂起来。剩下的三串，分别挂在大宝、二宝、小宝的尾巴上。

这个人类的端午节，给老鼠一家也带来了巨大的快乐！



8



19

于是，鼠娘带着三个老鼠宝宝一起做香袋。

鼠爹呢，他把做好的香袋像小娟家里那样也一串一串地挂起来。

剩下的三串，分别挂在大宝，二宝，小宝的尾巴上。

这个人类的端午节，给老鼠一家也带来了巨大的快乐！

そしてネズミのお母さんは3匹の子ネズミたちと一緒に匂い袋を作り始めました。

お父さんネズミは、けんさんのお家と同じように出来上がった匂い袋を一つ一つぶら下げました。

残った3つはお兄さんネズミ，まん中兄さんネズミ，ちびっこネズミのしっぽにくっつけました。

この人間の端午の節句は、ネズミさんの家族にも大きな幸せをもたらしました。

#### 4 日本語訳を試みて感じたこと

この中国語絵本から日本語への翻訳は予想外に難しく手間取ったものであった。自分自身こんなに悪戦苦闘するとは思ってもみなかったことである。何故だろうか？

- ① 中国語は当然のことながら漢字ばかりの表記である。一字一字の漢字に深い意味がある。

例えば「表紙」の題名の「的」であるが、この助詞一字をとっても

①言葉の最後部につけて ・主に名詞の修飾語に使う ・所属の関係を表す

②言葉や熟語の最後部につけて ・人や事物を示す

③文末につけて “肯定的な意味を表す”

というように深い複雑な使い方をします。

このことは自分自身にとって、中国語は外国語であることを痛感させるものでもあった。

- ② この絵本は『中国传统节日故事』であり、幼児に自国の伝統文化を伝えていくという大きな目的がある。つまり「端午节」には、“中国では粽を食べるのですよ”ということを幼児に伝えようとしている。しかも単に『粽』だけを取り上げると幼児にとっては興味を引くものではないので、彼らの身近な「ネズミ」という可愛い小さな生き物を借りて『粽』を分かりやすく取り上げている。しかも単に食べ物『粽』に終わるのではなく、『ネズミの一家と粽』のストーリーを展開していくことで楽しく微笑ましい話になっている。

しかし外国人である筆者には、全体的に文章が長くしかも説明的な文章が多く、どこを簡潔にするのか、どこを省いてはいけないのか、見極めることが大変に難しかった。

- ③ この絵本は『中国传统节日故事』であり、幼児に自国の伝統文化を伝えることを大きな目的としている。従ってこの作品は、ストーリーの展開により愉快地にテンポよく話が展開するものではなく、ネズミ一家が如何にして美味しい匂いのする『粽』を引っ張ってきて食べるか、人間社会の文化である「端午の節句」をネズミ一家も知っていくか、等々を幼児もネズミと一緒に知っていくことになる。筆者もこの絵本の作者同様、中国の伝統文化に通じていないと理解が浅薄になり伝達の方法として弱い、と大いに反省した。

- ④ 各ページから感じられたこと

#### ○ 表紙から考えられるもの

・「絵本」とは中国語になると意味が異なる。この場合、中国語での表記は直訳すれば「图画故事」であるが、今では「彩絵本」も一般的に使われている。このことは幼児の絵本が広く注目を集めていることにも通じるし、中国にとっても外来語の増加はおびただしく言語も刻一刻変化しているということが言える。

・書名の「不是方的，不是圓的」は幼児にとって「なんだろう？」「ネズミさん，かわいいな」と大いに期待を抱かせるネーミングである。また，挿絵も表紙は5匹のネズミが

それぞれのキャラクターで粽を取り囲み、幼児もネズミと一緒に「???」と考える余地がある。また、裏表紙の父さんネズミと母さんネズミも端切れを背負って家へ帰る場面で、これは親ネズミの子ネズミに「香り袋」を作ってやろうという気持ちの現れている場面でこの挿絵を裏表紙に使っているのはネズミ一家の仲の良さを表現する意味でも効果的である。

- ただ日本の幼児にとって「しかくでもない、まるくもないもの……」と直訳した場合少々、分かりにくいのではないかと思う。何故なら、日本の子どもは中国の幼児に比べると“粽”を食べたことのない幼児がほとんどと思われる。それほど身近な食べ物でもない。表紙の絵を見て「食べたことがある！」とすぐ感じられる中国の子どもと違って、挿絵からだけではなかなか連想しにくいと感ずるので、この場合「なあんだ？」を付記しクイズのように記し表紙を開く期待感を持つことができるようにした。
- 色調は黄色系統を中心に暖かいネズミの一家の雰囲気醸し出されている。

○ P 03から考えられるもの

- この場面はネズミ一家がどんなところに住んでいるのかを描く大切な場面である。特にネズミは大体、屋根裏に棲む、という概念のない幼児にどのように伝えるのか？けんさんの家の台所とネズミの家が両ページにまたがって描かれていることで距離感が出ていると言える。
- 「鼠爹会肯定的说：“这是煎鱼的香味！”鼠娘只会猜测：“这大概是烤肉的香味……”」この本文の「鼠爹会肯定的说」と「鼠娘只会猜测」はどのような違いがあるのか？なぜ作者はお父さんネズミもお母さんネズミも「鼠爹会肯定的说」あるいは「鼠娘只会猜测」と同じような表現にしなかったのか？
- 特にP 02家の中のネズミ一家5匹の挿絵はかわいい。真ん中のピンクのネズミは女兒であることを表現しているのか、あるいは一番小さいネズミであるのか？また右下のネズミは尻尾に紐をつけている。これはお母さんネズミがこの小さなネズミがチヨロチヨロしないように紐をつけているのか？また、洞穴のような家もネズミの屋根裏部屋を連想させるものである。

○ P 05から考えられるもの

- ここからこの話の本題に入る。ネズミたちの「いい匂い、どんな美味しそうなのだろう」という期待感を鼻が祠のようになることに喩えたりお父さんネズミが引っ張って帰るところなどなかなかユーモラスである。

○ P 07から考えられるもの

- ・この場面は文章と挿絵が一致してとても分かりやすい。また、子ネズミをはじめ一匹一匹のネズミたちの表情がとても可愛い。

○ P 09から考えられるもの

- ・このページの挿絵はネズミたちが美味しそうに粽を食べている様子が描かれている。子ネズミたちが粽によじ登って食べているのに対し、親ネズミはちゃんとお茶碗に入れて食べている。親ネズミが自分たちよりも子ネズミに充分食べさせてやろうとしている気持ちが表れている。

○ P 10から考えられるもの

- ・ここからは「端午节」のもうひとつの伝統行事である飾りのことに話題が転じている。窓に飾られている一つ一つの飾りはそれぞれ意味がある飾りである。このページの挿絵など幼児が興味をもって喜んでみる場面である。最後のP 19 の3匹のネズミが楽しげにぐるぐる回っている場面に繋がっている。

## 5 終わりに

以上のように、1冊の絵本をとおり一字一字にこだわりながら読むことで両国の言語の違いに気付くことが出来た。特に中国語のもつ一字の意味の深さに驚いた。特に動詞の多様さである。慙、扑上去闻、拖回来 等々細やかな表現までも理解する必要がある。

今や世界中が共存共栄する時代であるだろう。未来を担っていく子ども達にはこれからもどんどん視野を拡げて日本のよさ、外国のよさに気付いてほしいと願う。

これからも日本の絵本はもちろんのこと中国の絵本をとっかかりとして幼児教育の今後も動向を掴みながら研究していきたい。